



平成26年度

秋田県21世紀土地改良区創造運動事例集

水土里ネットの ふれあい

秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部
(水土里ネット秋田)

目次

活動事例

特集

- ・平成26年度21創造運動表彰 受賞一覧 … 1
- ・大賞受賞 水土里ネット南旭川 …2~5

1	鹿角地区(水土里ネット鹿角支部)	…	6
2	立花地区(水土里ネット大館)	…	7
3	綴子地区(水土里ネット綴子)	…	8
4	能代地区(水土里ネット能代地区)	…	9
5	浜田地区(水土里ネット浜口)	…	10
6	琴丘地区(水土里ネット琴丘)	…	11
7	秋田地区(水土里ネット仁井田堰)	…	12
8	飯島左貫地区(水土里ネット新城川)	…	13
9	飯田川地区(水土里ネット飯田川)	…	14
10	天王地区(水土里ネット天王)	…	15
11	八西地区(水土里ネット八郎潟西部干拓)	…	16
12	大瀧地区(水土里ネット大瀧)	…	17
13	井川地区(水土里ネット井川)	…	18
14	本荘薬師堂地区(水土里ネット子吉)	…	19
15	飛地区(水土里ネットにかほ)	…	20
16	西目地区(水土里ネット西目)	…	21
17	西木地区(水土里ネット西木)	…	22
18	大曲仙北地区(水土里ネット大曲仙北支部職員会)	…	23
19	七滝地区(水土里ネット七滝)	…	24
20	南旭川地区(水土里ネット南旭川)	…	25
21	平鹿地区(水土里ネット雄物川筋)	…	26
22	山田地区(水土里ネット山田五ヶ村)	…	27
23	稲川地区(水土里ネット稲川)	…	28
24	羽後地区(水土里ネットうご)	…	29

活動実施経過

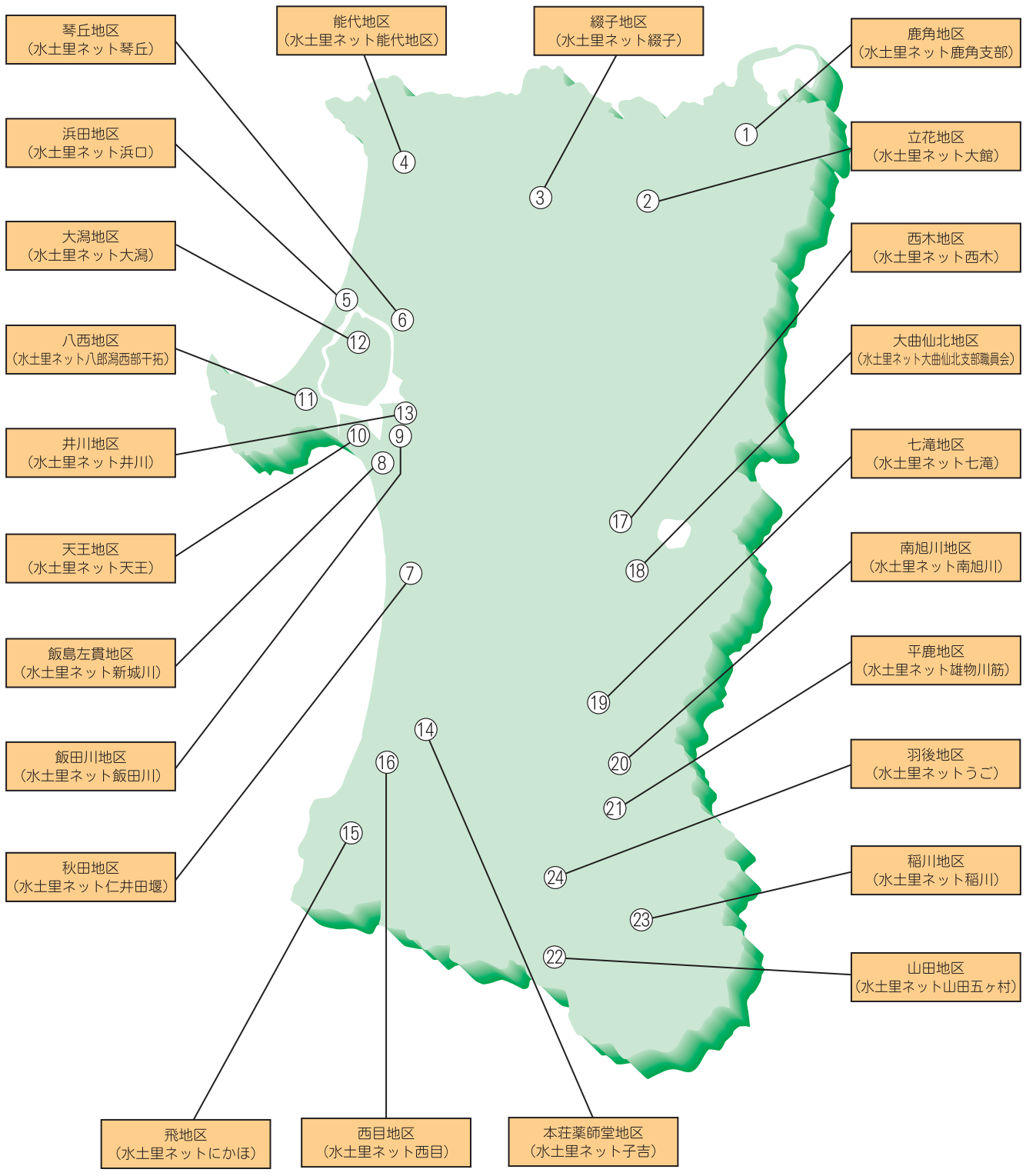
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	年数
1		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
2			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
3						■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
4				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
5	■		■				■				■	■	■	⑥
6			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
7	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
8											■	■	■	③
9					■						■	■	■	④
10											■	■	■	③
11									■	■	■	■	■	⑤
12						■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
13				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
14	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
15	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫
16									■	■	■	■	■	⑤
17						■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
18											■	■	■	③
19							■	■	■	■	■	■	■	⑦
20						■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑬
22	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑬
23	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑬
24	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑫

(活動経過実績)

- …1年目
- …2年目
- …3年目
- …4年目以降

表紙写真(上):「水生生物調査」(水土里ネット浜口)
 (下):「稲刈り」(水土里ネット井川)

平成26年度活動地区位置図



平成26年度21世紀土地改良区創造運動表彰

21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会（委員長 生源寺眞一 名古屋大学大学院教授）が12月19日、東京・平河町の砂防会館別館会議室で開催され、今年度の21創造運動大賞及び21創造運動大賞部門賞が決定しました。

大賞地区

都道府県	水土里ネット名	副 題
青 森 県	水土里ネット <small>ごしょがわらしなんぶ</small> 五所川原市南部	環境創造チャレンジャー
秋 田 県	水土里ネット <small>みなみあさひかわ</small> 南 旭川	自然探索コーディネーター
山 形 県	水土里ネット <small>しらたかまち</small> 白鷹町	次世代育成チャレンジャー
熊 本 県	水土里ネット <small>ひゃく たろうみぞ</small> 百 太郎溝	歴史伝承フロンティア

部門賞地区

都道府県	水土里ネット名	部 門
北 海 道	水土里ネット <small>とうべつ</small> 当別	地域コミュニティー
兵 庫 県	水土里ネット <small>えい がしま</small> 江井ヶ島	地域資源管理

秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

【 奨 励 賞 】

水土里ネット大館（大館市土地改良区）

水土里ネットうご（羽後町土地改良区）

【 特 別 賞 】

秋田県土地改良事業団体職員会大曲仙北支部

「自然探索コーディネーター」水土里ネット南旭川

水土里ネット名：南旭川（秋田県南旭川水系土地改良区）

理事長名：藤井弘道

役員数：役員23名、職員 常勤14名 非常勤1名

組合員数：2,656名

受益面積：3,558ha（水田 3,554ha、畑 4 ha）



＜運動の体制＞

21創造運動に対する取り組みの姿勢や意識（変化等含む）について

■役員 当初は、職員に啓発されての消極的な関わりであったが、運動が進むにつれて、役員自らの提案で、運動の対象地区を2年毎に変え管内全体に創造運動を普及しており、さらに、役員が地域分担のうえそれぞれの地区の特色をクローズアップしながら、互いに切磋琢磨した運動の展開で、将来を担う児童の育成に繋がりたいとしている。

■職員 事務局内でアイデアを持ちより、啓発普及（自由帳、クリアファイル、バック等）グッズの作成を行い、また、職員一人一人が広報マンとなって、児童に土地改良区の役割等についてPRする能力を会得し活動を継続的に行なっている。その経験を活かし多面的機能支払など他事業にも積極的に取り組んでいる。

■総代 殆どの総代が率先して地域役員に協力を申し出て、創造運動がスムーズに出来るよう、地域調整等で支援している。

■組合員 児童の祖父母、保護者である組合員を中心に、将来の小学校統合問題等を見据え、地域の活性化を呼び戻す創造運動を援護してもらっている。多面的機能支払では、保全組織と協力して児童の農業指導者として地域ぐるみで取り組んでもらえるようになった。

＜運動を担う後継者、人材育成の取り組み＞

農村地域に住みながら、大多数の児童は水や土とのふれあいが日常ないことから、当水土里ネット管内の小学校を対象に、創造運動を順次展開することにより、自然の豊かさ、物（花、野菜）を作る大変さ・楽しさなどを、学校行事の一環としての体験を通じて醸成し、全地域において未来のリーダー候補を育成している。新規採用職員には、組織を挙げて、県内先進地区の状況等を研鑽する機会を作り出すなどの取り組みを行っている。

＜運動の背景＞

当土地改良区では従来から取り組んでいる「国営造成施設管理体制整備促進事業」により、土地改良施設や土地改良区の果たす役割等のPRを、広報活動、出前授業などを通じて行ってきたが、年々施設の多面的機能等に非農家が目を向けるようになり、地域住民の土地改良区に対する意見、要望が多くなった。

これらを踏まえ、土地改良区が施設の保全・管理のため、組合員からの賦課金を財源に農村環境を長年保全してきた事実を、創造運動を通じ広く地域住民に認識してもらうとともに、少子高齢化・過疎化が進む地域の現状を真剣に受け止め、「管理体制事業」と2本立てで、「次世代が住み良い環境」に一步でも近づけようとの強い思いから、水土里ネットがその先導となり、地域と一体となった「ふるさとづくり」を目指すこととした。

＜運動の基本理念、目標＞

- ① 時を越えて、地域と共に、夢を語り、ふるさとづくりを目指す。
- ② 水土里ネットや農業水利施設の地域へ果たす役割をPRし、理解していただく。
- ③ 創造運動を通じて次世代に自然の大切さ、豊かさを伝えて行きたい。

以上の基本理念を念頭におき、地域と共に農村環境維持を模索しながら、自然との共存の大切さや子供達が体験を通じ心に残る21世紀土地改良区創造運動を展開して行きたいと考えている。

＜21創造運動の活動＞

■No. 1 活動名 土地改良区広報誌での啓発普及 活動部門 組織活性化

- ① 開始時期 平成18年度～
- ② 開催数 2回/年(各3,100部発行)
- ③ 実施形態 主催
- ④ 連携団体
- ⑤ 活動内容

水土里ネット南旭川を広くPRするため、「事業の実施状況」、「新規事業の紹介」、「21創造運動の取り組み」などを中心に、土地改良区の活動を幅広く掲載した広報誌の発行を行っている。

⑥ 取り組みの工夫

「見やすく・分かりやすく」をモットーに、文章を簡略化のうえ、取り組み状況が一目で分かる写真を使用して、視覚的に見ごたえのある構成を心がけ作成している。

⑦ 取り組みの成果

組合員の皆様からは、様々な記事が掲載されていると好評を得ているとともに、県内外の水土里ネットへも配布している事から、先進地研修等の問い合わせが増加している。

⑧ 活動状況写真



〈広報掲載状況〉

■No. 2 活動名 水土里ネット施設体験学習会 活動部門 地域コミュニティー

- ① 開始時期 平成16年度～
- ② 開催数 2回/年
- ③ 実施形態 主催
- ④ 連携団体 横手市横手地域農地・水・環境保全組織、金沢西根地域農地・水・環境保全組織
- ⑤ 活動内容

平成16年からスタートした本活動は、平成20年度から「田んぼの水はどこからくるんだろう？ ☆水たんけん☆」と題した、施設体験学習会として実施している。学校田から出発し、下流（小用水路）から上流（相野々ダム）へ遡る途中、幹線用水路・頭首工を、「目で見て、耳で聞いて、そして手で触れて」見学しながら、普段では判らない水の流れを体験し、水資源の大切さや土地改良施設の役割等について学んでもらっている。

⑥ 取り組みの工夫

年度初めから、学校側と開催日時、安全対策等の綿密な打合せを行い、当日には、前もって作成した子ども向けの土地改良施設に関する資料と合わせて、通常版の概要図や啓発用のオリジナルグッズも入れて配布しており、帰宅後、家族にも水土里ネットのPRが出来るよう心掛けている。

⑦ 取り組みの成果

この体験を通じ、農業用水の大切さはもとより、生活に欠かせない水や自然保護の大切さが学習され、子供たちの水に対する関心と農業に対する考えが、少なからず変わった事が大きな成果である。

今後とも小学校との連携を密にし、水の大切さや土地改良施設の役割りを幅広くPRして行きたいと考えている。

⑧ 参加状況（延べ数）

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政 土連等	参加者 数計
	水土里ネット			一般				
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
23	3	6	1	20	6		10	36
24	7	8		35	3		15	53
25	2	8		22	4		10	36

⑨ 活動状況写真



〈相野々ダムでの学習会の様子〉



〈上流水源での水質調査の様子〉

No.3 活動名 水土里ネット農業体験学習会

活動部門 地域コミュニティー

① 開始時期 平成18年度～ ② 実施形態 主催

③ 連携団体

横手中央地区資源保全隊、横手川漁業協同組合、横手川と水環境を考える会、横手やきそばサンライS、金沢地区資源保全隊

④ 活動内容

平成23年度は、朝倉小学校全校児童490名の参加のもと、様々な野菜づくりへの取り組みが行われた。1年生から6年生までそれぞれが、学年で決めた野菜を、植付けから収穫までを農業体験した。中でも、特に力を入れたのは、特別支援学級の児童による、本県最大の農業イベントである第134回秋田県種苗交換会の学校菜園部門に出展するネギづくりへのチャレンジであり、植付けから管理・畝上げ・収穫・出展までの一連の作業に周囲の暖かい目に見守られながら挑戦し、野菜の育て方を楽しみ、そして物の大切さを学習する場となった。

平成24年度は、横手川にふれあう学習として、南小学校から237名を得て、ラフティングに取り組んだ。6年生児童が、グループ毎にペットボトルを組み合わせた手作り筏を作成し、川の自然を守るメッセージボードをかかげ、川下りを体験した。ラフティング終了後は、地元横手川漁業協同組合の協力による投網の実演があり、横手川に生息している色々な魚の紹介をしてもらうなど、教室の中での学習では得られない貴重な体験を通した、川をきれいにする事や水の大切さ、生き物の尊さを学習する場を提供出来た。

平成25年度は、金沢小学校の児童140名が、全国B-1グランプリや各種イベントに出展する「横手やきそば」の具材として提供するキャベツの栽培を行った。夏キャベツ、秋キャベツといった季節に合わせた植付けと収穫を何度か繰り返し行い、さらに、美味しいキャベツを育てるために、児童は夏休み中も交代で虫の駆除や水やりなどを行うなど、積極的な取り組みがあった。収穫したキャベツは、市内のイベントにとどまらず、県外のイベントにも提供し、児童も自分たちの栽培したキャベツのPRを兼ねて一緒に参加するなど、野菜づくりから収穫・出展・PRまでを体験する貴重な学習会となった。

⑤ 取り組みの工夫

平成18年度より創造運動に取り組んできた中で、1地区で2年実施し、その翌年は他地区へ移行を行った。管内を1つの括りにするのではなく、地域毎に持っている色々な特色を生かすため、この様な独自のスタイルを取り組みに反映させた。

1つの作業を、参加者を変えながら継続的に行う事も大切だが、創造運動の基本理念である「土地改良区、土地改良施設の役割、自然の大切さ、豊かさを広く管内全体に行きわたる」よう

な運動を展開する事こそが重要と考えている。

これらを踏まえ、本水土里ネットでは管内全ての小学校児童を対象に、様々な体験学習会を企画し、学習の場を提供する事により、次世代の児童を健やかに育成するお手伝いが出来ればと考えている。

⑥ 取り組みの成果

年々創造運動を重ねる事により、少子高齢化の波に負けない地域づくりが築き上げられようとしている。当水土里ネットでは、組織一丸となって、地域が今出来ることを題材としたアイデアを持ちよった運動を展開することにより、将来を担う児童が自然の豊かさや自分達が住んでいる農村の大切さを学んでくれる事こそが、取り組みの成果と言えるのではないかと判断している。毎年、形は違えども児童の笑顔や作業での汗を間近に感じながら、これからも地域に根差した水土里ネットであり続け、各種団体とともに児童の笑顔ある体験学習をバックアップして行きたいと考えている。

⑦ マスコミ等への掲載について

A B S秋田放送、さきがけ新聞、市報よこて、横手かまくらFM

⑧ 参加状況（延べ数）

年度	参加者数					スタッフ数 (内数)	参画団体数 行政 土連等	参加者 数計
	水土里ネット			一般				
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
23	2	2	10	470		6		490
24	8	3		128	96	2		237
25	2	2	8	89	24	15		140

⑨ 活動状況写真



〈土地改良区についての学習会の様子〉



〈キャベツ収穫の様子〉

＜運動全体の成果と今後の展望＞

この運動で展開している子供と大人と一緒に田畑で作業し、食を共にするなどの、自然との触れ合いは昔では、この地域でも日常的な事であった。しかし、長い年月の間にこの風情が失われており、今、このことを地域で見つめ直し、もう一度昔ながらの情緒と絆のある農村社会を目指すことが本水土里ネットの責務と判断しており、現段階では、まだ、決定的な成果は現れていないと感じている。少しずつであるが、毎年の成果を積み重ね、管内の運動エリアを2年毎に順次変えて行う事により、今は何気ない動きが、いずれ実を結び、成果へ繋がるものとする。

運動の基本理念に掲げている3本柱を念頭に、地域とともに心に残る21創造運動を展開して行くという目標は概ね達成しており、今後は、対象を地域全体の老若男女まで拡大し21創造運動や農地・水といった事業等を、本水土里ネットが地域を先導して行う事こそが、必ずや将来の農村地域に役立つ（事業効果）と確信している。併せて、広報のあり方にも見直しをかけ一方的な広報ではなく、地域の要望に応えられる広報づくりにも力を入れて行きたいと考える。

21創造運動の取り組みは、すぐに成果が出るものではないと思っており、長い時間をかけながら「地域と共に歩む水土里ネット」を目指す事こそが、この運動の成功へ導くものと固く信じ、これからは役員や組合員をはじめ地域一体となって頑張りたい。

① 鹿角地区 【水土里ネット鹿角支部】

農業体験活動

八幡平小学校、十和田小学校の体験学習で実施している「田植え・稲刈り」に参加しました。

① 田植え体験学習

田植え学習へ出発する前に、各小学校学習田周辺の農業用施設マップや、パワーポイントを使い、施設的位置や構造、取水した水がどんな施設をとおり田んぼに流れつくのか等、施設の重要性や水の大切さ、水土里ネットの役割や取り組み等を説明しました。

どちらの小学校も手植え作業での田植えに挑戦しました。初めて田んぼに入る子供も多く、泥だらけになりながらも一生懸命に田植えを行っていました。

② 稲刈り体験学習

十和田小学校では、コンバインを使って稲刈りを体験しました。恐る恐るハンドルを握り、真剣な表情で取り組んでいるのが印象的でした。

八幡平小学校では、慣れない手つきで稲刈り鎌を持ち、大変な作業に耐えながらも、最後は「はさ掛」まで行い楽しい秋の1日になりました。

③ 収穫感謝祭

12月に八幡平小学校で収穫感謝祭があり、田植え、稲刈りを手伝った保護者や地域の人達に招待状が届きました。今年も、収穫したお米で、創作お米料理をご馳走になってきました。

大小様々な形の三色おにぎり・きりたんぼ・おせんべいなど、子供達が丹精込めて作った新米をおいしく味わってきました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット鹿角支部
後援・連携	鹿角市内小学校、かつの土地改良区、鹿角地域振興局
実施期間	5月～12月
参加者	農業体験（田植え・稲刈り）129名
報道関連	北鹿新聞、米代新報
活動実施年数	12年目（H15年～）
連絡先	〒018-5201 鹿角市花輪字荒田4-1 かつの土地改良区 TEL. 0186-23-3762
その他	県特別賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット鹿角支部（根本由紀子）

○活動の目標及び達成率	目標	小学校の総合学習等に積極的に参加し、農業体験で農業農村の重要性や水土里ネットの役割をPRする等			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	昨年同様、計画的に活動することができず残念でした。すべての運動で関係機関と連携し、協力を得ながら活動することができました。今後も更なる体制強化を図り、活動を推進していきたいです。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	関係機関である鹿角地域振興局と連携し協力を得ながら活動している。報道機関を活用し幅広く活動をPRしていく。
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいる。	③運動の計画性	A	地域に合った内容で、農業施設の位置マップやパワーポイントを使い、役割や重要性、水土里ネットがどう関わっているのかを説明。
②後継者育成の工夫	A	地域毎にパンフレットや施設マップを作成し小学生へ説明している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	運動の対象を小学生としているため、生徒のお家の方や地域の限られた人の参加となっている。今後幅広く活動していけるよう取り組みたい。
①基本理念の設定	B	地域環境に合う内容で小学生が理解できるような活動している。	b. 地域農業	C	地域柄、農家の方々が主体となり農業振興に積極的に活動しているので、改良区はサポート的な組織として活動している。
②地域の歴史等の伝承	B	水土里ネットの役割や取り組みをパンフレットにまとめPRをしている。	c. 地域コミュニティー	B	昨年に引き続き、小学校側から出前授業の申し込みがあり、運動への理解が浸透し、信頼関係が築けてきたと実感しました。子供達をとおして、家族や地域住民にも農業に対する関心が、今以上に高められるよう運動を継続していきたい。
③運動の先駆性	C	管内全ての小学校を対象として活動出来るよう更なる取り組みが必要。型にはまった活動となってきている。今後検討が必要。	d. 地域資源管理	C	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	学校側や各関係機関の協力を得ながら今後も継続していきたい。	・これからの地域を担う子供たちに、農業農村の持つ多面的役割や環境保全について理解を深めてもらえるような活動を継続していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

② 立花地区

【水土里ネット大館】26年度「県奨励賞」

小学生によるネギの収穫体験～地域の自然や人々とのかかわり

今年で11年目を向かえた農業体験学習は、昨年同様、農事組合法人立花ファームと立花農地保全隊の協力のもと、10月27日に大館市川口小学校の3年生32人、教員2人が参加して、立花ファームで作付けされているネギの収穫体験を行いました。

今年は、昨年8月9日の集中豪雨と9月16日の台風18号による激甚災害の影響で農作業が遅れ心配されましたが、どうにか当初予定されていたネギの収穫体験を実施することができました。

最初にネギの取り方や袋入れの際の注意事項等の説明を受けたあと、収穫用の袋が各自に一枚ずつ渡され、収穫作業を体験。枯れ葉を落として入れられた袋には、各自、自分の名前を書いて家に持ち帰ることが出来るとあって、子供たちは大喜びで収穫作業を行っていました。

作業終了後に質問コーナーが設けられ、子供たちからはネギの育て方や良いネギの見分け方等について活発な質問が出されるなど、時期的に少し肌寒さが感じられる中、子供たちの熱心な様子が伺えました。

本事業は毎年地元小学校3年生の児童を対象にネギ植え体験と収穫体験を実施していましたが、今年度は札幌市内の中学生が農業体験のため立花ファームを訪れ、田植えやネギ植え体験が行われるなど、立花地区にとっても農業体験を通し幅広い交流が行えたことは大変喜ばしい事であり、今後も農事組合法人立花ファームと立花農地保全隊の協力のもと体験学習を継続して行きたいと思えます。



活動体制

実施主体	農事組合法人 立花ファーム
後援・連携	水土里ネット大館（大館市土地改良区）
実施期間	10月27日
参加者	大館市川口小学校3年生32名、教員2名
報道関連	
活動実施年数	11年目（H16年～）
連絡先	〒017-0056 大館市字沼館道南40-12 大館市土地改良区 TEL. 0186-42-0558
その他	県奨励賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大館（石田 誠孝）

○活動の目標及び達成率	目標 体験学習の継続 達成率 100%				
○活動に対する評価	沢山の協力をいただき、今年度も実施することができた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	
①役職員・組合員の参加	A		③運動の計画性	B	
②後継者育成の工夫	B		4. 運動の成果		
2. 活動の意欲性について			a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	A		b. 地域農業	A	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	A	
③運動の先駆性	B		d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性					
①運動の継続性	A				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

③ 綴子地区 【水土里ネット綴子】

農業体験学習

今年も「北秋田市綴子地区農地・水・環境保全組織（愛称 綴子大太鼓の里保全隊）」と連携し活動を実施しました。

綴子農村公園隣の農業体験田（10a）で、綴子小学校5年生による農業体験学習を行い、田植えから稲刈りまで、米作りの一連の流れを学びました。田植え体験では昔ながらの手植えを体験し、同時に現代の田植機を使った田植えも見学。児童は昔の人々の苦労を実感しつつ、最新の技術にも触れることで、さらに米作りへの理解が深まったように思います。その他、代かき見学・生育調査・稲刈り体験と計4回の農業体験学習を行いました。そこで学んだことは、11月の地域住民交流会にて農業体験発表という形で地域住民に報告。クイズや演劇を交えるなど趣向を凝らした発表は、児童たちが活動に対して真剣に取り組んだことが感じられる内容でした。交流会ではこの他にも、自分たちが育てて収穫したお米で作ったキリタンポの試食会や、餅つき体験、婦人会による余興なども行われました。子どもからお年寄りまで一体となって楽しめ、一年の活動を振り返ることのできる有意義な会となったと思います。

今後も活動をさらに定着、発展させるべく、地域住民や関係機関との連携を深めていきたいと考えています。



活動体制	
実施主体	北秋田市綴子地区農地・水・環境保全組織
後援・連携	北秋田市、北秋田地域振興局、地域団体、綴子小学校、水土里ネット綴子
実施期間	5月15日～12月17日
参加者	地域住民、綴子小学校、県立大学、北秋田市、北秋田地域振興局、土地改良区職員他
報道関連	大館新報、秋北新聞、北鹿新聞
活動実施年数	8年目（H19年～）
連絡先	〒018-3301 北秋田市綴子字掛泥道下210番地 北秋田市綴子土地改良区 TEL. 0186-62-1677
その他	さなえ賞（H20）県奨励賞（H25）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット綴子（三沢 諭司）

○活動の目標及び達成率	目標	活動を通じ、農業や地域社会に対する関心、理解を深める			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	関係機関との連携を図り、目標達成に努めた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	広報の発行回数を増やすなど強化している。
①役職員・組合員の参加	A	地域住民と共同で作業を実施している。	③運動の計画性	C	積極的に検討。
②後継者育成の工夫	B	学校や関係団体との連携。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	継続的な活動により深まっている。
①基本理念の設定	B	取組が定着している。	b. 地域農業	B	積極的に検討。
②地域の歴史等の伝承	C	農業体験や河川の水質調査など。	c. 地域コミュニティー	A	学校、自治会、婦人会、子ども会などと連携が取れている。
③運動の先駆性	B	取組が定着している。	d. 地域資源管理	A	組織と連携して農地、関連施設の整備、美化に取り組んでいる。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	継続的、安定的な活動を行っている。	・少子高齢化の影響もあり、参加人数の減少が見受けられる。		
			・地域全体で盛り上げるべく、関係機関との連携強化や積極的な広報活動を行う。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

④ 能代地区 【水土里ネット能代地区】

農業水利施設の維持管理等に係る連携協力活動・水土里の実践活動

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として、「農業水利施設の維持管理等に係る連携協力活動」と、「水土里の実践活動」を開催した（日程に関しては下記「活動体制」欄参照）。

「農業水利施設の維持管理等に係る連携協力活動」は、公立法人秋田県立大学の学生が参加し、大野分木工、浅内調圧水槽といった基幹的水利施設の施設見学を実施した。

「水土里の実践活動」は2回開催しており、第1回目は石川自治会と能代市認定こども園淳城幼稚園が参加し、大野分木工敷地内花壇への花の定植を実施した。第2回目は落合団地自治会が参加し、落合幹線排水路の環境整備として雑木の撤去を実施した。

これらの活動を通して、地域資源である農業水利施設の持つ多面的機能の重要性を改めて認識し、農業者だけではなく、非農業者も含めた地域全体で農業水利施設を守っていかなければならないことを確認した。

今後とも、学校や自治会等の非農業者と共同で取り組む活動を継続していけるよう努めたい。



活動体制	
実施主体	能代地区管理体制整備推進協議会（事務局：秋田県能代地区土地改良区）
後援・連携	
実施期間	7月17日、10月1日、11月27日
参加者	7月17日 公立法人秋田県立大学 生物資源科学部アグリビジネス学科 学生38名、教員1名 能代市農業振興課3名 山本地域振興局2名 計51名 10月1日 秋田県能代地区土地改良区職員7名 秋田県能代市認定こども園淳城幼稚園 園児56名、教員2名 石川自治会11名 能代市農業振興課1名 山本地域振興局3名 計80名 11月27日 秋田県能代地区土地改良区職員7名 落合団地自治会11名 山本地域振興局3名 秋田県能代地区土地改良区職員7名 計21名
報道関連	無し
活動実施年数	10年目（H17年～）
連絡先	〒016-0014 能代市落合字中大野台100番地23 秋田県能代地区土地改良区 TEL. 0185-54-3024
その他	県奨励賞（H20） 県知事賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット能代地区（武田 佳晃）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設の多面的機能発揮のため、地域住民との施設管理協定締結等の新たな枠組みを構築する			
	達成率	70%			
○活動に対する評価	協定締結や推進活動を継続してきたことにより事業の趣旨や重要性が理解され、これまでの活動が定着段階にある。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	取り組みを継続し、より一層活動の浸透に努める必要がある。
①役職員・組合員の参加	B	活動やPRを継続してきたことにより理解が深まってきている。	③運動の計画性	B	啓発パンフレットを作成し、実践活動の際には内容の説明を行っている。
②後継者育成の工夫	-	実施していない。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	総代や組合員の取り組みへの参加は、一部の人たちに留まっているため、より一層活性化に努める必要がある。
①基本理念の設定	A	推進協議会で計画策定を実施し活動を実施している。	b. 地域農業	-	地域農業の振興には関係していない。
②地域の歴史等の伝承	-	実施していない。	c. 地域コミュニティー	B	地元自治会や幼稚園と活動を実施している。
③運動の先駆性	B	推進協議会で計画策定に則って活動している。	d. 地域資源管理	B	各施設の保全管理の強化につながっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	推進協議会で計画策定を実施し活動を実施している。			

（自己判定） A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑤ 浜田地区 【水土里ネット浜口】

平成26年度水生生物調査及び土地改良施設見学会

〈水生生物調査〉

調査目的

浜口地区内の環境は水田や畑地が多く、それに必要な水は近くの蓮沼や八郎湖から供給されている。そのような環境に視点をあて、「生き物（水生生物）と環境」をテーマに、地域の水路を活用した体験学習を通し、自分たち周囲の環境に目を向ける態度を醸成する。

調査結果（児童の記録より）

① 生き物

- ①甲殻類～エビ アミ（イサジャアミ） ②巻貝類～タニシ ③魚類～ フナ、ウグイ、ドジョウ、ナマズ、種類不明の稚魚
④両生類～アマガエル ⑤昆虫～トンボ類の幼虫、ヤゴ、ヘビトンボの幼虫、アメンボ、ゲンゴロウ

② 水の状態

- ・水田の水の流れはほとんどなかった。（水量調整）
- ・コンクリート水路は藻類の付着は少なく、土壌水路の状態は水の流量が少なかった。

子どもの感想から意識の変化が見られた主な内容

- ・生き物の命のみならず「水」であることに気づかせ、水の大切さと水を確保するための工夫がなされている。（水路、蓮沼）
- ・コンクリート水路と沼近くでは、水生生物の種類、魚の大きさ（成長）に違いがあること。
- ・地域で食べているフナやワカサギは八郎湖や蓮沼に生活する生き物であり、そのために環境や水を汚さないことや、自分たちが環境を守っていくことが大切であること。

〈昆虫生息調査〉

調査目的

当町の基幹産業である農業やそれを支える環境の働きに視点をあて、「生き物（昆虫）と環境」をテーマに昆虫採集体験などを通して、地域の環境への関心を高める。

確認した昆虫（児童の記録など）

- ①トンボ目～アカネトンボ類、シオカラトンボ類
②チョウ目～モンシロチョウ、アゲハチョウ、モンキチョウ シジミチョウ類、ヒョウモンチョウ類
③コウチュウ目～テントウムシ類、オサムシ類、ゴミムシ類、シデムシ類 ソウムシ類、ハムシ類、コメツキムシ類、コガネムシ類
④バッタ目～バッタ類の幼虫 ⑤カマキリ目～カマキリ類の幼虫 ⑥ハチ目～アリ類 ⑦その他～ダンゴムシ（甲殻類、昆虫ではない）

児童の感想と今後の対応

- ・児童は昆虫生息調査に参加して、昆虫に強い興味を持ったようである。教科書と比較などしている児童もいた。昆虫の体の各部分の形や色などにも関心を持った児童が多かった。更に家族と今回の調査場所や日向山などで昆虫採集をしたいという希望を持った児童も多かった。
- ・採集を通して地域の環境への関心も向上したようである。
- ・栗の花が咲くこの時期は昆虫が多く出るので、調査時期としては良かったと思う。できれば秋の初め頃にもう一度生育調査の計画があれば、比較検討ができ、地域の環境への関心ももっと深まると思う。



活動体制	
実施主体	三種町浜口地域農地・水・環境保全組織
後援・連携	三種町浜口土地改良区
実施期間	6月25日、6月30日
参加者	浜口小学校4年生16名、指導員1名、調査補助員4名、小学校教諭3名、土地改良区役職員4名 浜口小学校3年生19名、指導員1名、調査補助員3名、小学校教諭3名
報道関連	
活動実施年数	6年目（H15年～）
連絡先	〒018-2407 山本郡三種町浜田字福沢13-1 三種町浜口地域農地・水・環境保全組織（三種町浜口土地改良区事務所内）TEL. 0185-88-8818
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット浜口（畠山 篤美）

○活動の目標及び達成率	目標 農業に関心を高め、環境の重要性を知ってもらう 達成率 100%			
○活動に対する評価	3年目の継続事業で、小学校の総合学習の一環として水生生物調査ができた。調査時期、調査ポイントの設定に検討を加え、児童生徒の興味・関心を高めるための工夫や継続された調査になるよう配慮し、児童生徒の今後の学習に生かされる調査にしたい。また、土地改良施設（揚水機場等）の見学については児童から理解され、機械の稼働による用水路に流れる様子を実際に見学できたことは効果的であった。			
判定基準	自己判定（達成度）	判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等	判定	評価等
1. 取組体制について		②運動の発展・拡大	A	専門家や退職した先生等を講師に協力して頂いた。
①役職員・組合員の参加	B	③運動の計画性	A	現地で直接施設を見せながら説明した。
②後継者育成の工夫	A	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について		a. 組織活性化	C	総代、組合員の意識向上にはまだまだで、さらに努力していきたい。
①基本理念の設定	A	b. 地域農業	B	子供たちには、将来地域の担い手農家として頑張ってくれることを期待している。
②地域の歴史等の伝承	A	c. 地域コミュニティー	A	各組織や小学校と連携を図りながら進めることができた。
③運動の先駆性	B	d. 地域資源管理	A	水資源の大切さや土地改良施設への理解が得られた。
3. 運動の継続性・発展性		5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	・調査ポイントを多くして、生息する生物の違いを確認する。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

田んぼの水の話

琴丘小学校5年生を対象にした農業施設見学会は今年で連続9年目となりました。

5年生では6月の時期に社会科で農業用水等の学習をしており、学校側でも大変貴重な社会勉強になると喜ばれています。

活動内容は、最初に羽根川ダムにおいてテキストとパネルによって土地改良区の仕事と農業用水の仕組みや水利施設の役割・歴史等を説明し、質問に答えるという形で行いました。

その後の施設見学会は、用水の流れに沿って羽根川ダム・ため池・揚水機場・排水機場の順に施設を廻り、実際に運転操作等を体験してもらいました。参加した児童は施設の内部を見るのは初めての体験で、興味深そうな様子でした。

活動自体は毎年同じですが、参加児童が変わるので説明をする側も新たな気持ちで接することができます。

今後この活動を継続し、土地改良区と農業水利施設の果たす役割を児童や地域住民に理解してもらえようになりたいと考えています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット琴丘（琴丘土地改良区）
後援・連携	三種町立琴丘小学校、三種町教育委員会
実施期間	6月18日
参加者	小学5年生35名、教師2名、土地改良区職員2名
報道関連	
活動実施年数	10年目（H17年～）
連絡先	〒018-2104 山本郡三種町鹿渡字中沢新田34-1 琴丘土地改良区 TEL. 0185-87-2277
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット琴丘（牧野 一）					
○活動の目標及び達成率	目標	土地改良区及び農業水利施設に対する社会認識の向上			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	「田んぼの水はどこからどこへ」というテーマで、琴丘小学校の5年生を対象に毎年開催している。見学の前に地域の主要水源である羽根川ダム湖水館において水の流れや水土里ネットの仕事について説明し、その後主要農業施設をバスで巡回し、役割や仕組みを生徒に教えると共に操作体験をしてもらっている。実施可能な範囲内での活動を継続しており、児童・父兄・学校からの評価もあると感じている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	他組織との連携は十分とは言えない。
①役職員・組合員の参加	B	理解が十分浸透しているかは不明。	③運動の計画性	A	盛り込むようにしている。
②後継者育成の工夫	B	引き継ぐべき職員は確保している。	4. 運動の成果		
2. 活動の興味性について			a. 組織活性化	C	組織の活性化までには至っていない。
①基本理念の設定	A	土地改良区及び農業水利施設の役割を伝えている。	b. 地域農業	C	間接的に地域農業振興のために活動している。
②地域の歴史等の伝承	A	地域の農業水利施設を対象としている。	c. 地域コミュニティー	B	それなりの関わりと貢献はしているのではないかと感じる。
③運動の先駆性	B	運動の理念や関連性を考えている。	d. 地域資源管理	C	地域資源の保全強化のために少しは貢献している。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	無理のない運動を心掛けている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

7 秋田地区 【水土里ネット仁井田堰】

2014語り部交流会 in あきた「三堰が語る農地・水の多面的役割」フォーラム

秋田市の遊学舎で「2014語り部交流会 in あきた」が開催され、約200人が訪れました。この会は、仁井田堰土地改良区・秋田市旭川筋土地改良区・秋田市孫左衛門堰土地改良区が主催し、共催として秋田地域振興局農林部、後援として秋田県土地改良事業団体連合会など多くの関係機関に参加いただいたイベントです。まずは「三堰物語～水と緑が一番大事～」というテーマの基調講演で、あきた森づくり活動サポートセンターの菅原所長に三堰それぞれの歴史や、治水・利水についてお話を頂きました。土地改良区の方々や受益者の方々に、水を利用するだけでなく、水源の森づくりにも興味を持ってもらえたら非常にありがたいと思います。

「三堰の歴史の継承、地域学習、保全管理に関する活動報告」では、私自身が“ふるさと水と土指導員”の立場から改良区で10年間行った「水土里のみちウォーキング in 仁井田」についてその活動を振り返り、支えてもらったスタッフへの感謝の言葉を話しました。外旭川小学校の大野校長は先人への感謝と地域学習の大切さについて話しました。秋田市孫左衛門堰土地改良区の鈴木事務局長は、今後も保全活動に力を入れていく意欲を示していました。最後に「三堰が語る農地・水の多面的役割」と題した語りフォーラムが、秋田県立大学の高橋教授をコーディネーターとして行われ、菅原所長は「200年～400年の歴史を持つ地域全体の宝物を非農家の人にも伝えていく活動を積極的に行って行かなければと思います。先人の苦勞を伝え、地域の誇りを再発見していきましょう」と会を締めくくりました。

私たち自身も、改めて多くの事を知る良い機会となり、忙しい中開催しましたが本当に良かったと思います。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。



活動体制	
実施主体	水土里ネット仁井田堰・水土里ネット孫左衛門堰・水土里ネット旭川筋
後援・連携	秋田地域振興局農林部農村整備課・秋田市・秋田県土地改良事業団体連合会 あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議
実施期間	1月29日
参加者	行政関係者、土地改良区役職員、組合員、一般市民
報道関連	
活動実施年数	1年目（H26年～）
連絡先	〒010-1421 秋田市仁井田本町4-5-20 仁井田堰土地改良区 TEL. 018-839-2504
その他	県奨励賞（H16）東北地方大賞奨励賞（H16）県知事賞（H19）東北地方大賞奨励賞（H20） 東北地方大賞奨励賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仁井田堰（伊藤 清栄）

○活動の目標及び達成率	目標 水利施設の歴史と役割について理解を深めてもらう 達成率 80%
○活動に対する評価	参加者から、地域に住んでいてもわからなかった歴史や施設について改めて知る機会になり大変良かったという声があり、開催した意義があったと思う。

判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	B		③運動の計画性	A	
②後継者育成の工夫	B		4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	
①基本理念の設定	A		b. 地域農業	B	
②地域の歴史等の伝承	A		c. 地域コミュニティー	A	
③運動の先駆性	A		d. 地域資源管理	A	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

8 飯島左貫地区 【水土里ネット新城川】

小泉瀉クリーンアップ

今年で3回目をむかえた『小泉瀉クリーンアップ』が6月29日(日)午前6時より、金足地区振興会、追分町内連合会、県立博物館、小泉瀉公園事務所の協力により開催致しました。

昨年に引き続き、事前に地域内の住宅や学校に、クリーンアップ開催のパンフレットを配布し、協力要請を行い対応致しました。その甲斐も有り、昨年を上回る町内及び関係者193名、学校生徒127名、合計320名を募ることが出来ました。

初めに、“小泉瀉をキレイにする会”奈良会長のお礼の挨拶に始まり、続いて当改良区安田理事長より、ごみゼロ運動についての趣旨説明がされ、その中で農業用施設の大切さを将来の担い手にアピールしました。その後、小泉瀉の男瀉、女瀉に別れてクリーンアップ作業を行い、軽トラック3台分のゴミを回収し、隅々まで綺麗にすることができました。回収されたゴミの量は、回を重ねるごとに少なくなってきており、活動による成果があらわれてきていると実感致しました。

今後も継続していく上で、関係団体の代表による『小泉瀉をキレイにする会』を発足させ、毎年6月の最終日曜日をクリーンアップ開催日として位置付ける事ができました。

地域が連携し活動を継続していくのは勿論のこと、水質改善にも努めて行きたいと思います。



活動体制	
実施主体	小泉瀉をキレイにする会、水土里ネット新城川（新城川土地改良区）
後援・連携	金足地区振興会、追分町内連合会、小泉瀉公園管理事務所、県立博物館、各町内会
実施期間	6月29日
参加者	町内及び関係者193名、学生127名（金足農業高校、秋田北中学校、金足西小学校外）合計320名
報道関連	秋田さきがけ新聞
活動実施年数	3年目（H24年～）
連絡先	〒010-0146 秋田市下新城中野字琵琶沼188-15 新城川土地改良区 TEL. 018-873-2151
その他	さなえ賞（H25）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット新城川（安養寺文隆）

○活動の目標及び達成率	目標	クリーンアップを通して農業用施設の重要性和水の大切さをアピールする			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	各関係機関と連携をはかり、活動を行う事ができ、また報道関係を通し我々の活動をアピールできたと思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	各関係団体の代表により『小泉瀉をキレイにする会』が発足され、毎年6月の最終日曜日に開催されることになった。
①役職員・組合員の参加	B	理事長、職員が積極的に協力している。	③運動の計画性	A	水利施設の役割のパンフレットを配布し、理事長の挨拶にも盛り込みアピールした。
②後継者育成の工夫	A	小中高生の将来の担い手から参加してもらい、育成を行っている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	理事長、職員が積極的に協力しているが、地域の総代、組合員にも協力を要請していきたい。
①基本理念の設定	A	クリーンアップを通し農業用施設の重要性、水の大切さを知ってもらうことができた。	b. 地域農業	C	徐々にやっている。
②地域の歴史等の伝承	A	改良区の施設であるため池を利用した活動ができた。	c. 地域コミュニティー	A	学生の外、今年は校長先生や教師の方々からも参加をいただいた。クリーンアップだけでなく、農業用施設について出前授業もおこなった。
③運動の先駆性	A	土地改良区だけでなく、地域住民の意識改革ができた、継続的に行う事が可能になった。	d. 地域資源管理	B	少なからず保全強化につながっていると思う。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	各団体、住民の協力により少ない経費で活動ができた。	・ここだけでなく、他の地域でも活動できるよう、積極的に展開していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

学習田農業体験活動

飯田川小学校が実施する「総合的な学習」における学校農園活動で、「ふれあいマイ田んぼ」と銘打った5年生による学習田への農作業体験を行いました。

田植え体験：作業の説明を受け裸足で田んぼに入り、型枠で付けた目印に沿って苗を手植えました。田植え機の乗車体験も行いました。

稲刈り等体験：黄金色に稔った稲を、鎌を使って手刈りして束ねました。コンバインの乗車体験も行いました。また、昔の農器具を使っての脱穀・もみ摺りなどを体験し、その米をおにぎりにして食べました。

収穫感謝祭：今年は、各学年で実施した農作業体験の発表等を行い、感謝状をいただきました。昼食には、子供たちが収穫した米で作った「だまこ鍋」をごちそうになりました。

子供たちが農作業の楽しさや収穫の喜びを感じながら、水やお米の大切さも知ってもらえれば、水土里ネットの重要性も理解していただけたと思います。



活動体制	
実施主体	飯田川小学校
後援・連携	J Aあきた湖東、老人クラブ、婦人会、水土里ネット飯田川
実施期間	5月12日、9月29日、11月21日
参加者	飯田川小学校（5年生、教職員、保護者）、老人クラブ他 80名
報道関連	
活動実施年数	4年目（H18年～）
連絡先	〒018-1502 潟上市飯田川下虻川字八ツ口64 飯田川土地改良区 TEL. 018-877-3888
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット飯田川（川上 丈樹）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設や水土里ネットの役割と重要性のPR			
	達成率	50%			
○活動に対する評価	参加が定着してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	広がりは薄い。
①役職員・組合員の参加	C	水土里ネットとしての参加者が少ない。	③運動の計画性	C	少しは盛り込まれている。
②後継者育成の工夫	D	取り組んでいない。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	D	活性化していない。
①基本理念の設定	B	取り組んでいる。	b. 地域農業	C	少しは振興に取り組んでいる。
②地域の歴史等の伝承	C	少しは生かしている。	c. 地域コミュニティー	B	地域とのコミュニティーは良い。
③運動の先駆性	D	他に運動はしていない。	d. 地域資源管理	C	少しはつながっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	毎年無理なく継続中。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

10 天王地区 【水土里ネット天王】

クリーンアップ

当地区は平成17年より9年間、塩口自治分館と潟上市天王土地改良区が協定締結し水路の管理用地のクリーンアップを行ってきました。

この活動を行う前は、水路用地＝ゴミ捨て場のようなイメージがありましたが、自分たちでクリーンアップを行っていくにあたり、粗大ゴミ、農業ゴミ（肥料袋、モミガラ）などが減ってきました。

また、参加してくれる方々の大半が御婦人で、クリーンアップに参加してくれた後はその話を家庭の話題とすることで、不法投棄防止の啓発になっていると思われます。最近では、この承水路管理用地に隣接する市道は、集落の散歩コースとなっています。クリーンアップに参加してくれている方々が、不法投棄に関する監視人的な役割を果たしており、散歩途中に軽微なゴミがあったら一箇所に集めるような活動も見受けられるようになりました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット天王（潟上市天王土地改良区）
後援・連携	塩口自治分館
実施期間	6月1日
参加者	88人
報道関連	なし
活動実施年数	3年目（H24年～）
連絡先	〒010-0201 潟上市天王字上江川47 潟上市天王土地改良区 TEL. 018-878-3111
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット天王（桜庭 秀見）

○活動の目標及び達成率	目標	不法投棄を減らして捨てる人の意識改革			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	目標は、大幅に達成とは言い難いが継続する事により徐々にゴミが捨てられなくなっている事が感じられる。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	口こみで「ご近所誘いあわせの上」と呼びかけで啓蒙している。
①役職員・組合員の参加	B	この活動は、数ある地区の一地区の活動なのでなかなか浸透が進まない。	③運動の計画性	B	クリーンアップをする事によって当該施設の重要性の認識が深まる。
②後継者育成の工夫	C	この活動の目標は、継続であり大きくせず小さくせず。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	地区役員、地区総代の意識は向上した。
①基本理念の設定	A	生活に密着している承水路管理用地の美化が目的。	b. 地域農業	B	地域農業と地域集落のつながりが深まる。
②地域の歴史等の伝承	B	美化が進むと地域に密着した水路なので地域資源になりうる。	c. 地域コミュニティー	B	自治組織に農業施設を認識しつつ集落のコミュニティーにつながっている。
③運動の先駆性	C	地域住民にクリーンアップを行なう事で不法投棄をなくすと言う考えから来ている。	d. 地域資源管理	B	農業用水をクリーンアップする事で施設の管理が芽生えてきている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	継続を目的としている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑪ 八西地区 【水土里ネット八郎潟西部干拓】

農業水利施設見学会

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として、弘戸小学校5年生を対象に施設見学会を実施した。

移動の途中で、農道にバスを止め、当土地改良区は干拓によって造成された田を管理していること、周辺から流れてくる生活排水や雨水の終末処理をしているため、排水機場のポンプで八郎潟調整池に排水していることなどを説明した。

次に、揚水機場、排水機場を見学し、実際に調整池に排水させる様子を見せながら、水が勢いよく流れることを説明し、危険な排水路や調整池付近では遊ばないよう注意を促した。

子ども達は建物があることは知っていても、どういった働きをしているのか知らなかったため、改めて各施設の役割について理解したようだった。

その後、南部排水機場に移動し、八郎潟干拓のことや排水機場のしくみをビデオで見てから、集中制御方式の操作室や巨大なポンプを見学した。最後に排水の様子を見た子ども達は、管から勢いよく出る水を見て驚きと喜びの声を上げていた。

今後も農業水利施設の重要性と土地改良区が行っている維持管理について理解してもらうためにこの活動を継続していきたいと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット八郎潟西部干拓（八郎潟西部干拓地区土地改良区）
後援・連携	弘戸小学校、秋田地域振興局、八郎潟基幹施設管理事務所
実施期間	6月6日
参加者	弘戸小学校（生徒17名、教職員2名）八郎潟基幹施設管理事務所（2名）土地改良区役職員（8名）
報道関連	
活動実施年数	5年目（H22年～）
連絡先	〒010-0431 男鹿市弘戸字浜1-6 八郎潟西部干拓地区土地改良区 TEL.0185-46-2174
その他	さなえ賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット八郎潟西部干拓（船木 友見）					
○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設と土地改良区の役割について理解や関心を持ってもらう			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	小学校からは好評を得ており、今後も出来る限り継続していきたい。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	運動は定着してきているが実施内容の工夫が必要である。
①役職員・組合員の参加	C	役職員一体で取り組んでいるが組合員には浸透していない。	③運動の計画性	B	水利施設を見学し、役割について理解してもらえるよう説明している。
②後継者育成の工夫	D	人材育成までは取り組んでいない。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	組合員の意識向上までには至っていない。
①基本理念の設定	B	目標を立て取り組んでいる。	b. 地域農業	C	先導的な組織にはなっていない。
②地域の歴史等の伝承	B	干拓の歴史となぜ排水機場が必要なのかについて理解されつつある。	c. 地域コミュニティー	B	今のところは小学校との関わりだけであるが、今後更なる努力が必要である。
③運動の先駆性	C	目標に沿って位置づけされているが工夫が必要である。	d. 地域資源管理	B	子ども達を通し学校内、家庭内で話題にしてもらい少しずつはあるが、保全強化につながっていると思う。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		安全面に留意し、継続的な取り組みができるよう努力していきたい。
①運動の継続性	B	学校側の協力を得て継続していきたい。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

皆で守ろう豊かな大地

出前授業及び施設見学会

大潟小学校 4 年生対象（40名） 担当教師 2 名

出前授業と、学習の実体験として施設見学会を10月頃実施しており、平成19年度から 4 年生を対象に今年で 8 回目となる。

実施日 平成26年10月16日（木曜日） 午前 8 時30分～12時

- 授業内容
- ① 大潟土地改良区の役割等の概要説明（資料提供 パンフレット等）
 - ② 農業用水の取り入れ方式について
サイフォン式取水口（東部承水路側（12カ所）模型を使用し説明する。
 - ③ 施設見学は、出前授業での模型から実際の施設を説明
また、排水機場、防潮水門について八郎潟基幹施設管理事務所により説明
大潟村が海拔ゼロメートル以下であることも含め現地体験した。



活動体制	
実施主体	水土里ネット大潟（大潟土地改良区）
後援・連携	大潟小学校、大潟村教員委員会
実施期間	10月16日
参加者	生徒40名、担当教師 2 名（出前授業） 施設見学会（引率教師 2 名） 計42名
報道関連	特になし
活動実施年数	8 年目（H19年～）
連絡先	〒010-0443 南秋田郡大潟村字中央3-9 大潟土地改良区 TEL. 0185-45-2118
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大潟（千田 博）

○活動の目標及び達成率	目標 児童の実体験を大切に 達成率 60%				
○活動に対する評価	おおむね達成できた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	B		③運動の計画性	A	
②後継者育成の工夫	B		4. 運動の成果		
2. 活動の意匠性について			a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	A		b. 地域農業	B	
②地域の歴史等の伝承	B		c. 地域コミュニティー	A	
③運動の先駆性	B		d. 地域資源管理	A	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

13 井川地区 【水土里ネット井川】

学習田農業体験活動

平成17年から21世紀創造運動の一環として、井川小学校5年生による学習田体験農業活動「田植え・稲刈り」を行って今年で10年目になりました。

田植えでは、井川町農業委員より苗の扱いや植え方を教わり、田植機での作業を体験したのち、手植え作業を体験しました。泥の感触に歓声を上げ、慣れない手つきで田植えをしていましたが、今年は生徒数も多かったため作業も順調に進み、顔や体を泥んこにしながらか楽しそうに作業をしている姿は印象的でした。

稲刈りでは、農業委員の方から稲の刈り方の説明を受け、コンバインに同乗し機械での稲刈りを体験したあと、自分の背丈が隠れるほどに育った稲を慎重に刈り取っていました。慣れない鎌での刈り取りに苦戦していましたが、最後は刈り取った稲を「はさがけ」とコンバインで脱穀し、稲刈りを終了しました。又、後日、小学校から収穫感謝祭の招待を受け、生徒より体験農業活動の感想や稲の生育調査などの発表会が行われ、生徒と保護者、招待者で「みたらしタンポ」を作り、収穫の喜びをかみしめました。

この学習田体験農業活動は5年生が対象になっており、この活動を毎年継続していくことで、多くの子どもたちに農業水利施設の役割や重要性を啓発できる良い機会となるため、今後も継続していきたいと思います。



活動体制	
実施主体	井川小学校
後援・連携	井川町教育委員会 井川町農業委員会 水土里ネット井川
実施期間	田植え5月23日 稲刈り10月2日 収穫感謝祭12月12日
参加者	井川小学校（5年生、教職員、保護者）井川町（農業委員会、教育委員会）等 延べ250名
報道関連	湖畔時報社 井川広報誌
活動実施年数	10年目（H17年～）
連絡先	〒018-1512 南秋田郡井川町北川尻字海老沢樋ノ口36-2 井川町土地改良区 TEL. 018-874-2105
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット井川（小林 秀昭）					
○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設の役割と重要性			
	達成率	70%			
○活動に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> 行政、教育機関との連携は順調であり定着している。 農業水利施設の役割を理解してもらうよう継続していく。 				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	特別な工夫はなし。
①役職員・組合員の参加	C	役職員の意識は向上したが、組合員までは浸透していない。	③運動の計画性	B	活動時に水土里ネットの説明を実施。
②後継者育成の工夫	B	小学生を対象に活動している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	C	全体的な意識の向上まではいっていない。
①基本理念の設定	A	水土里ネットについての啓発を継続している。	b. 地域農業	B	地域農業の振興に務めている。
②地域の歴史等の伝承	B	管理施設に隣する場所で活動。	c. 地域コミュニティー	C	一部との関わりとなっている。
③運動の先駆性	B	水土里ネットの関心を深めるため活動。	d. 地域資源管理	C	一部の参加となっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	無理なく継続できている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

古代米の梵天で「高校受験全員合格」祈願

本荘東中学校3年生による古代米の田植え、稲刈り体験を実施。5月23日、東中3年生131名が古代米の苗を使い、田植えを行いました。

今年の生徒会のスローガンは「NOW OR NEVER ～十年目のキセキ～」です。

「今こそチャンス」という意味で、開校十年目を迎えた今年、「東中生全員で奇跡を起こそう」という願いを込めて【NEVER】という文字にしました。

8月29日、古代米部分だけの稲刈りをし、その刈り取った稲を使って梵天を作り、12月5日に寄贈しています。梵天には高校受験合格・交通安全の願いが込められています。

今回は3年生の生徒全員がフロアに集合し、寄贈後、受験全員合格を祈願しました。



活動体制	
実施主体	本荘子吉環境保全活動組織
後援・連携	水土里ネット子吉（由利本荘市子吉土地改良区）
実施期間	5月～12月
参加者	本荘東中学校3年生他（131名）
報道関連	
活動実施年数	9年目（H18年～）
連絡先	〒015-0042 由利本荘市埋田字小館81-16 由利本荘市子吉土地改良区 TEL. 0184-22-0426
その他	県奨励賞（H17）県知事賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット子吉（渡辺 聡）

○活動の目標及び達成率	目標 東中3年生全員参加 達成率 100%			
○活動に対する評価	学校行事として取り組んでもらえることから、地域住民の参加も可能にしていけたら良いのでは（天候による順延の知らせが難しい）。			
判定基準	自己判定（達成度）	判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等	判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C 浸透や継続は可能だが、以上の工夫は難しい。
①役職員・組合員の参加	B	毎年広報で知らせているが、現在は保全事業の一環で行われているため、創造運動が始まりであるとは、組合員全てが理解しているとは疑問である。	③運動の計画性	D 水土里ネットの重要性については理解が薄いと思われる。
②後継者育成の工夫	D	将来の人材はわからない。	4. 運動の成果	
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	D 改良区事業の参加、組織の活性化には繋がっていない。
①基本理念の設定	A	生徒に農作業を通じ将来農業に関心を持ってもらいたい。	b. 地域農業	D 先導的では無い。
②地域の歴史等の伝承	B	農地を活かす運動となっている。	c. 地域コミュニティー	B 学校とは密接に関わっている。
③運動の先駆性	A	後輩に受け継がれている。	d. 地域資源管理	C 学校とは密接に関わっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について	
①運動の継続性	A	無理の無い運動である。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農村環境対策による学校教育と連携した農業体験学習

今年度も環境保全活動の事業の一環として、学校教育と連携した活動が実施されました。

5月20日の田植え作業では、にかほ市立金浦小学校5年生と地区活動組織会員で、伝統的田植え作業と現在の機械化による実演、及び農業水利の概要を学びました。最後に体験発表を述べ、生育状況を今後も観察していくことを話し合い、秋の収穫に期待をして終了致しました。

今年は、当地域で特に大きな災害もなく、稲の作柄も平年並みで、9月19日に稲刈り作業を実施しました。ほとんどの生徒が刈り取り作業は初めてでしたが、1時間30分くらいで10aの圃場の刈り取りを完了致しました。

その後、刈り取った稲の傘杭掛け作業も体験し、全員で記念写真を撮り、最後に作業の体験発表を行って終了しました。

活動組織では、毎年収穫を喜び合っていたきたいと自然乾燥米を脱穀・米作りして学校に配達しており、1月下旬頃、小学校5年生による「農業体験学習交流会」を開催しておりました。今年は学校内のインフルエンザ予防（風邪）等の事情により中止になってしまい大変残念でしたが、来年度も継続して実施していきたいと思っております。



活動体制	
実施主体	飛地区環境保全活動組織 代表 佐藤 正春
後援・連携	水土里ネットにかほ（にかほ市土地改良区）、にかほ市金浦小学校、にかほ市農林水産課
実施期間	4月～1月
参加者	田植え作業55名・稲刈り作業60名
報道関連	にかほ市企画広報班
活動実施年数	12年（H15年～）
連絡先	〒018-0311 にかほ市金浦字花瀧93-1 にかほ市土地改良区 TEL. 0184-74-5496
その他	県奨励賞（H19）県知事賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットにかほ（佐藤 正春）					
○活動の目標及び達成率	目標	農業体験学習を通じて学校教育と連携を図る			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	12年目に入り充実してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	取り組みの継続はしているが他団体連携はない。
①役職員・組合員の参加	A	組織体制は充実してきている。	③運動の計画性	B	概ね理解されている計画になっている。
②後継者育成の工夫	C	地域の高齢化により難しい状況である。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	概ね組織の活性化になっている。
①基本理念の設定	A	目標を立てて取り組んでいる。	b. 地域農業	C	至っていない。
②地域の歴史等の伝承	A	水土里ネットの特徴を生かした活動になっている。	c. 地域コミュニティー	A	概ねコミュニティーが図られている。
③運動の先駆性	B	基本理念に基づいた運動になっている。	d. 地域資源管理	C	学校とは密接に関わっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	総合的に無理のない運動になっている。	・組織も高齢化しているが、できる限り支援していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業体験学習（米づくり体験）

本地区では「農業体験学習」の一連の活動として地元小学生を対象に、農業用水の水質調査、二級河川西目川の魚類生息調査、親水公園の清掃、農業用水を利用した小水力発電所を見学し、自然エネルギーと地球温暖化についても学習している。そして、米づくり体験は毎年継続して実施している。

米づくり体験は小学校5年生が主体となって、播種・田植え・生育観察・稲刈り・自然乾燥の各工程を実体験を通じた学習活動をしている。

田植え・稲刈り・自然乾燥は昔ながらの手作業で、小学生の他、幼稚園、一般関係者が一緒に活動をしている。又、田植えは一部機械移植をし、機械には小学生を乗せ作業を体験させている。

更に、刈り取った稲を、小学生、幼稚園児が運搬し、棒杭による自然乾燥をしている。

体験学習田は西目小学校の近くの県道沿線に位置し、学習田はパイプラインかんがいで、農道は舗装されており、作業環境も良く、楽しみながら作業を進めている。又、作業時には子供の保護者も多く集まり、作業にも参加している。

自分達の作業で収穫した貴重な自然乾燥米は学校での試食と、給食用に活用している他、西目出身の東京ふるさと会で試食用として利用している。

東京の試食会用に使用している袋には作業中の子供の写真を貼り、体験学習により収穫したふる里の米であることを表示しており、好評で米の消費拡大の役割を果たしている。

又、この体験学習により農業に対する関心と環境に対する関心も深まってきているので今後も継続したい。



活動体制	
実施主体	西目環境保全活動の会
後援・連携	水土里ネット西目（西目土地改良区）、J A 秋田しんせい西目地区、由利本荘市役所西目総合支所、稲作研究会、A S T 農場、西目小学校、西目幼稚園、年長児保護者、西目地区老人クラブ、西目地区町内会、はまなす会ゆうゆう
実施期間	4月15日（播種）、5月20日（田植え見学）、6月24日（稲の生育観察）、9月24日（稲刈り）
参加者	播種58名、田植え69名、稲の生育観察53名、稲刈り118名
報道関連	なし
活動実施年数	5年目（H22年～）
連絡先	〒018-0604 由利本荘市西目町沼田字西潟356-3 西目土地改良区 TEL. 0184-33-4666
その他	さなえ賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西目（三浦 昭夫）

○活動の目標及び達成率	目標	地域農業に対し関心を深める			
	達成率	100%			
○活動に対する評価	屋外での活動であり天候に左右されるため小学校の授業時間の調整等、難しい面もあるが、「農業が基幹産業である」ということに対する関心と環境保全にも関心が深まってきた。又、継続して実施することにより地域農業の発展に寄与できると考えております。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	事業実施前に充分打合せして実施している。
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員以外の非農家参加もある。	③運動の計画性	A	体験学習前に水の大切さについて話をしている。
②後継者育成の工夫	A	この運動に理解ができていく。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	組織の活性化までは至っていない。
①基本理念の設定	A	農業への関心を深めることに主眼をおいて取り組んでいる。	b. 地域農業	B	先導的な組織とはいえない。
②地域の歴史等の伝承	B	地域資源等を生かした活動はあるものの水土里ネットの理解は不足している。	c. 地域コミュニティー	A	大いに貢献している。
③運動の先駆性	A	体験学習は作業の節目に行っている。	d. 地域資源管理	B	学校とは密接に関わっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	計画の中で実施している。	・天候により日程が左右されることもあるが、この活動が体型的なカリキュラムにより学習の一課程となれば更に効果がでくると思われる。又、後継者の育成にもつながると思う。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

17 西木地区 【水土里ネット西木】

水の大切さと地域環境を学ぼう～施設見学会～

10月20日に実施された西明寺小学校4年生の施設見学会は、今回で8回目となった。今年も宮田頭首工、小山寺頭首工、西明寺高区浄水場、下水処理施設の西明寺クリーンセンターの見学を行い、活動自体は毎年同じだが参加児童が毎回違うので、説明者も新しい気持ちで臨んでいる。

宮田頭首工では子供たちが、改良区の説明に熱心に聞き入り、メモをとっていた。最初に管理事務所の中を見て、遠隔操作で水門のゲートを調節することを知った後、管理橋の上ってその高さや長さ（100m）水深（2m）を知りました。また、桧木内川の上流から流れてきたゴミが取水口に溜っている様子を見て、何気なく捨てたゴミが川を汚すということを理解したと思う。また、自家発電機をみたとき、停電になっても大雨の場合にはゲートが自動で上がることも理解したようだった。

仙北市企業局の協力を得ての浄水場の見学では、最初に建物の外にある取水井戸で地下水を汲み上げ、炭酸を抜き、建物内で濾過機や塩素で浄化して、各家庭に供給されることを知った。

最後に仙北市下水道課の協力で下水処理場を見学させてもらった。そこでは、汚水を浄化するバクテリアの姿を電子顕微鏡で見ることが出来た。処理場で浄化された水は桧木内川に流れていく。

子ども達の感想の中には「見学で、水はすごく大切で、たくさんの人のおかげできれいな水を飲み安心して暮らせていることが分かった。きれいな川を守るために、ごみを投げて汚さないように気を付けていきたい」との感想もあったので、よく理解してもらったと思う。

後日、感想文を「きらきら発見」と題し文集にして配り、各家庭で読んでもらえるようにした。仙北市広報でも毎回大きく取り上げられて掲載になるので、市内全域で知られるようになっていくと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット西木（仙北市西木土地改良区）
後援・連携	西明寺小学校、仙北市役所
実施期間	10月20日
参加者	西明寺小学校4年生（25名）先生（2名）仙北市役所（8名）土地改良区（6名）
報道関連	広報SENBOKUせんぼく
活動実施年数	8年目（H19年～）
連絡先	〒014-0515 仙北市西木町門屋字漆原87 仙北市西木土地改良区 TEL. 0187-47-2602
その他	さなえ賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西木（伊藤 長三）					
○活動の目標及び達成率	目標	小学生を対象に水土里ネットの役割と「水と環境の大切さ」を考えてもらい、各家庭で話題にしてもらう			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	8回目となる施設見学会は、すっかり定着したように思う。真剣に説明を聞く子供達の感想文には、「水は大切だ」「川にゴミを捨てない」という言葉が多かった。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	浸透、継続にはなっているが広がりはない。
①役職員・組合員の参加	B	施設見学会の様子を総代会での報告や市の広報に載せて活動を周知徹底している。	③運動の計画性	A	
②後継者育成の工夫	D	特にしていない。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	D	
①基本理念の設定	A	当初から小学生の施設見学会を行い、改良区の役割と「水と環境の大切さ」を家庭の話題にしてもらおうと活動している。	b. 地域農業	D	
②地域の歴史等の伝承	B	水に関係する宮田頭首工と小山寺頭首工の2つの頭首工の見学や、浄水場・下水処理施設の見学をしている。	c. 地域コミュニティー	A	小学校との信頼関係が築けている。
③運動の先駆性	C		d. 地域資源管理	D	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A		・現在できる活動はしているが、他の活動も模索中である。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

第3回「水土里のみちウォーキング」in抱返り溪谷

ウォーキングを通じて普段何気なく見ている自然の中で、健康増進を図ると共に、周辺に点在している、普段は立ち入ることのできない農業水利施設に親しみ、その役割や大切さを各土地改良区担当職員から説明をいただきながら理解してもらうことを目的に取り組む。

活動は今年で3回目であり、開催地を変更する検討もしたが、前回開催後参加者より「次回も是非同じコースで」との問い合わせが多数寄せられ、引き続き同じコースにより開催した。老若男女問わず地域住民に広く参加してもらうために共催である県・土地連・各土地改良区のホームページ・さきがけ新聞の「地域情報」を活用し、関係機関の協力を得て、今年度の参加者は113名になりました。

コースは県立自然公園である抱返り溪谷駐車場を集合出発し、疏水百選にも選ばれている田沢疏水の「抱返り頭首工」や仙北平野の「玉川頭首工」の施設を巡り、自然豊かな原生林の中、青い溪流と断崖絶壁が織りなす勇壮な溪谷美を堪能し、溪谷随一の名称回顧の滝を折り返す、約7キロ・9キロの2コースを設け、ゴール地点では「完歩証」と記念品として「あきたこまち」450gをプレゼント。このプレゼントは、毎回参加者から好評を得ている。



活動体制	
実施主体	大曲仙北支部職員会
後援・連携	秋田県・水土里ネット秋田・管内土地改良区
実施期間	6月16日
参加者	県内外問わず子供から大人まで113名
報道関連	
活動実施年数	3年目（H24年～）
連絡先	〒019-2192 大仙市刈和野字本町5 秋田県西仙北土地改良区 TEL. 0187-87-3655
その他	県特別賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大曲仙北支部職員会（佐藤 靖彦）

○活動の目標及び達成率	目標 参加者200名 達成率 56.5%			
○活動に対する評価	前日の雨が多少影響したのかキャンセルが相次いだ。			
判定基準	自己判定（達成度）	判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等	判定	評価等
1. 取組体制について		②運動の発展・拡大	C	
①役職員・組合員の参加	C	③運動の計画性	A	
②後継者育成の工夫	C	4. 運動の成果		
2. 活動の意匠性について		a. 組織活性化	B	
①基本理念の設定	B	b. 地域農業	C	
②地域の歴史等の伝承	A	c. 地域コミュニティー	B	
③運動の先駆性	B	d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性		5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	・地域資源はまだ豊富にあり、普段立ち入ることのできない、農業施設の体験など継続的に多数の方に参加していただくために、今後はさらに市、マスコミ等も活用しPRしたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

2014七滝「水の森」植樹

美郷町が主催した植樹事業が七滝水源涵養保安林にて行われました。本植樹は、美郷町の水源地となっている大切な地域の森林涵養を維持するとともに、その役割と機能を再認識し、豊かな「水の森」を未来へ継承していくために行なわれています。

植樹前、美郷町住民活動センターにて「森林のはたらき」と題して学習会を行いました。学習会では、森林の多面的機能やブナの保水力等を参加者へ説明し、森林の働きの大切さを参加者へ訴え、植樹に対する理解を深めてもらっています。

続いて、七滝保安林に移動し、昨年度植樹した苗木に育樹作業を実施しました。子供たちは一生懸命苗木へ肥料を打ち込みました。その後、参加者全員でブナの苗木を手に取り、スコップなどを使い丁寧に200本を植樹しました。

最後に、参加者全員で「育てブナの木」と呼び掛け、今後の成長を祈願しました。



活動体制	
実施主体	美郷町
後援・連携	仙北地域振興局農林部、社団法人東京生薬協会、日本航空株式会社、秋田県七滝土地改良区
実施期間	6月30日
参加者	美郷町内全小学校4年生、保護者、美郷町民 200名
報道関連	秋田県HP、美郷町HP、広報誌七滝
活動実施年数	7年目（H20年～）
連絡先	〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字米町29 秋田県七滝土地改良区 TEL. 0187-84-2137
その他	さなえ賞（H22）緑化推進運動内閣総理大臣賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット七滝（藤岡 義博）					
○活動の目標及び達成率	目標	広葉樹の働きと水の生成の仕組みを認識してもらう			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	参加者へ森林の多面的機能と水の生成の仕組みを認識してもらうと共に理解も深めてもらうことが出来た。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	行政との連携により毎年恒例の行事として定着している。
①役職員・組合員の参加	B	総代・組合員から参加を得られるようになってきた。	③運動の計画性	B	水源涵養林を所有し管理もしていることでのPRが出来た。
②後継者育成の工夫	B	各種研修会へ職員が参加しスキルアップに努めている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	A	役職員が一丸となり運動へ積極的に取り組み、役員は機会あるごとに総代や組合員へ運動の啓発をしている。
①基本理念の設定	A	植樹で地域自然の素晴らしさを感じ、水土里の役割を子供たちが理解し、子供から家族、地域住民へと伝えてもらっている。	b. 地域農業	B	水源涵養林から湧き出る水が農業に欠かせないものだと言っている。
②地域の歴史等の伝承	A	水源涵養林をPRすると共に水源地の理解を深めてもらっている。	c. 地域コミュニティー	A	各種団体との連携の強化。
③運動の先駆性	B	他の手本となるよう取り組んでいる。	d. 地域資源管理	B	水土里ネットの役割を認識してもらう機会となった。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	小学校の要望も取り入れた運動を行い、経費も出来るだけ抑えている。	・活動を継続していく。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

地域で取組む…地産地消！！

今年度は昨年に引き続き横手市立金沢小学校の協力のもと、地域住民との地産地消に取り組んでいます。
 金沢地域での創造運動も2年目となり、昨年の経験を生かし、金沢小学校児童、金沢保育園児、地域住民、資源保全隊、横手やきそばサンライ'Sの方々とともに今年度はキャベツ、トウモロコシの栽培に取り組みました。

- 1) 6月13日は、あいにくの小雨の中、開会式を講堂内で行いその後、金沢小学校児童を中心に、キャベツ600株、トウモロコシ50株をそれぞれ学年毎に作業分担し植付け作業を行いました。その際、金沢保育園児も応援団としてかけつけ、お兄さん、お姉さんの頑張りを一生懸命応援してもらいました。
- 2) 8月10日には夏休み中ということもあり、地元子供会でトウモロコシの収穫と試食会をそれぞれ開催しました。
- 3) 9月2日には、横手やきそば B-1グランプリ（会場：ふるさと村）に提供するキャベツの収穫を6年生児童を中心に行い、畑から玄関までは急遽保育園児に協力してもらうなど、地域みんなで収穫作業を楽しく学習することができました。
- 4) 啓発普及活動として、のぼり旗の設置やオリジナル文具セット、自由帳及び横手地域農業指導センターから提供していただいたメモ帳の配布を行いました。

昨年同様に金沢小学校児童には夏休み中もキャベツの管理をしてもらいましたし、保育園児には収穫した少し重いキャベツを一生懸命運んでもらいました。横手やきそばサンライ'Sの皆さんにはその都度美味しいやきそばを提供してもらい、資源保全隊を始め地元法人組織には裏方として色々な作業（苗の準備、マルチの設置、栽培・収穫の指導、後片付け）をしていただきました。一人一人の協力と地元児童の育成をみんなが考え、参加していただいた今年の創造運動は充実した実りある活動になったと思います。来年度は対象を別の地域へ移行し、地域活性化のため積極的に創造運動に取り組んでいきたいと思っています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット南旭川（秋田県南旭川水系土地改良区）
後援・連携	水土里ネット秋田平鹿支部、横手地域資源保全隊（金沢地区）
実施期間	6月13日、8月10日、9月2日
参加者	横手市立金沢小学校児童他83名、金沢保育園児他38名、横手地域資源保全隊57名、横手やきそばサンライ'S 19名、土地改良区職員3名 計200名
報道関連	秋田さきがけ
活動実施年数	8年目（H18年～）
連絡先	〒013-0060 横手市条里一丁目1番70号 秋田県南旭川水系土地改良区 TEL.0182-33-7200
その他	さなえ賞（H19）県奨励賞（H19）県知事賞（H22）21創造運動大賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット南旭川（照井 元）

○活動の目標及び達成率	目標 野菜づくりの大切さ、大変さを理解する				
	達成率 90%				
○活動に対する評価	学校教育の一環として地産地消は基より、キャベツやトウモロコシの栽培を通じ食物の大切さを指導することが出来たことは大変良かったと思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	横手市内の小学校を順番に回り、運動を年々広く展開している。
①役職員・組合員の参加	B	学校等の連携もあり、地域の皆さんにもっと参画していた。	③運動の計画性	A	水土里ネットについて、児童の皆さんと作業やコミュニケーションを通じ、理解をしていただいた。
②後継者育成の工夫	A	横手地域資源保全隊と合同で取り組んでいる。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	A	総代会や広報誌の発行を通じ、意識向上に努めている。
①基本理念の設定	A	管内の地域を2年毎に順番を決め、取り組んでいる。	b. 地域農業	A	資源保全隊を中核に地域に合わせた運動を展開している。
②地域の歴史等の伝承	A	地産地消を生かした取り組みをしている。	c. 地域コミュニティー	A	地域住民は基より関係団体の協力を促し、運動を展開している。
③運動の先駆性	B	継続的な運動（地域の活性化）に取り組んでいる。	d. 地域資源管理	B	毎年取り組みの方法を変えながら、地域資源の保全に繋がる運動を展開している。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	経費を余りかけず啓発普及に力を入れている。	・時代のニーズに合う、地域が必要とする継続な運動を末永く展開していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

皆瀬1号幹線用水路植栽活動

十文字町の由来と思われるこの地域は、交差点の近くで、古くからの物流の要所であり、人・車・自転車の往来が活発でメインストリートになっております。

この道路と平行して皆瀬幹線1号用水路が流れて、その水路（ボックス）上部に植栽活動をしており、見事に人目線で彩られている花達は、ホッとさせてくれる休憩ゾーンになっています。

また、下準備の際は、通りの薬局さんから栄養ドリンクの差し入れもあり、植栽前から気持ちよく汗をかくことができ、作業後の充実感も一層高まりました。

このようなほんの小さな親切が人の心を丸くする、まさにこの活動がまわりに同じような影響を与える存在であり続けたいと願っています。



活動体制	
実施主体	十文字歩道の環境美化を考える会 水土里ネット雄物川筋
後援・連携	東北農政局平鹿平野農業水利事業所、平鹿地域振興局農村整備課、横手市農村整備課
実施期間	7月4日
参加者	十文字歩道の環境美化を考える会 地域住民 等 40人
報道関連	
活動実施年数	6年目（H21年～）
連絡先	〒013-0102 横手市平鹿町醍醐字浅舞山13-74 秋田県雄物川筋土地改良区 TEL. 0182-32-2244
その他	県特別賞（H22）県奨励賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット雄物川筋（佐藤 達也）					
○活動の目標及び達成率	目標	水路敷地を利用した植栽活動			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	施設の持つ多面的機能の充実。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	
①役職員・組合員の参加	C	改良区全体に浸透させるようにするのが課題である。	③運動の計画性	B	植栽以外の土地改良区の維持管理水路の多面的機能をPRする必要が有る。
②後継者育成の工夫	C	担当以外の職員も多数参加しているが、育成とまではいかない。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	C	この地区以外との温度差は否めない。
①基本理念の設定	B		b. 地域農業	D	
②地域の歴史等の伝承	C		c. 地域コミュニティー	D	日本型直接払いと提携できるものかと思案中。
③運動の先駆性	C	単体活動化になりやすいので、複合活動に発展させたい。	d. 地域資源管理	B	
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	各種事業を有効に活用している。	・目射しを遮る可動式のアーケード的施設があれば、尚一層人々の目にとまるのではないか。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

地域住民一体となった維持管理コンテスト

水土里ネット山田五ヶ村管内で展開されている、多面的機能支払交付金活動組織（20の下部活動組織）が実施している農地維持活動・資源向上活動の取り組みについて、毎年度実施している維持管理コンテストと共催で21世紀土地改良区創造運動を実施しています。

- ① 管内を21の維持管理ブロックに分け、その維持管理ブロックを母体とした農地・水保全管理支払交付金活動組織に対してコンテストを行い、「最優秀賞、優秀賞、農村環境賞、努力賞」の表彰を行うことにより、各活動組織の維持管理に対する啓発と競争意識の高揚に努める。
- ② 21創造運動と農地・水・環境保全向上対策と連携した取り組みを行うために、農家・非農家を含めた地域ぐるみでの効果の高い取り組みを目指すための研修会を開催し、その後の懇親の場を介して情報交換と地域融和を図る。

各活動組織の代表（代理出席も可）が各地区の実施状況を巡回し、項目別に採点しながら実施内容の説明を行いました。各活動組織において、それぞれ工夫した取り組みが見られ、活動組織間の連帯意識の高揚や情報交換の場としてなくてはならないものとなっております。

また、基幹水利施設である山田頭首工の現地視察を経て、農業用水利施設の重要性や水土里ネットが行っている維持管理活動のPRにも努めながら、多面的機能支払交付金制度を通じて大きな効果が生まれつつある、地域住民との交流活動（農家・非農家を巻き込んだ集落環境、生活用水の確保等）、更新期を迎える土地改良施設の更なる長寿命化対策の啓発にも努めております。

この維持管理コンテストは本年で28回を数え、水土里ネット山田五ヶ村の21世紀土地改良区創造運動の中核を担う活動となっております。今後とも創意工夫に努めながら、水土里ネットの大切な役割を地域住民に伝えていきたいと考えております。



活動体制	
実施主体	水土里ネット山田五ヶ村（雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区）
後援・連携	多面的機能支払交付金活動組織、維持管理委員会、維持管理ブロック委員会
実施期間	9月12日
参加者	水土里ネット役員、多面的機能支払交付金活動組織役員他35名
報道関連	秋田県雄勝地域振興局農林部農村整備課
活動実施年数	13年目（H14年～）
連絡先	〒012-0055 湯沢市山田字中屋敷139番地 雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 TEL. 0183-73-0438
その他	東北推薦（H15）県奨励賞（H18）農林水産大臣表彰（H18）東北地方大賞（H19）21創造運動大賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット山田五ヶ村（倉田 一治）

○活動の目標及び達成率	目標 農地・水保全管理支払制度との連携 達成率 90%				
○活動に対する評価	更新期を迎える土地改良施設の長寿命化対策のため、多面的機能支払交付金等の制度を活用し、地域住民の手によるみんなの維持管理活動を心掛けている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	B	多面的機能支払交付金活動組織や集落との連携を図る。
①役員・組合員の参加	A	農地・水保全管理支払制度により積極的に活動に参加。	③運動の計画性	A	世代交代が進む組合員や地域住民に対する啓蒙・啓発。
②後継者育成の工夫	B	過疎化、高齢化の進展により組織毎の後継者育成が課題。	4. 運動の成果		
2. 活動の意匠性について			a. 組織活性化	B	継続性を持った取り組みにより意識向上を図っている。
①基本理念の設定	A	地域住民参加型の維持管理体制の確立が目標。	b. 地域農業	B	農地の保全管理を含め、良好な生産基盤を確立したい。
②地域の歴史等の伝承	A	管内維持管理体制の統一により、地域資源を保全。	c. 地域コミュニティー	C	小学校等との連携が不定期となっており、今後の課題。
③運動の先駆性	A	農地・水保全管理支払制度と密接に連携。	d. 地域資源管理	B	多面的機能支払交付金活動組織や山間等集落協定とも連携を図り、地域資源の保全に努めている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	27年前から毎年維持管理コンテストを実施している。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

どろんこ学校13 (先人に学び・農に学び・守り育てる「地域の宝」)

当水土里ネットは先人が築き上げてきた農業水利施設を地域の宝として捉え、施設は地域住民全体の共有財産であり、その意識の高揚を図っていくため、学校教育と連携した活動を展開することにより、児童やその親、祖父母、地域住民等に農地・農業水利施設のもつ多面的機能を理解していただくとともに、近年問題になっている農業水利施設へのゴミの投棄について啓発活動を行い、地域環境の保全に努めていきたいと思っている。

このため平成26年度から「ふるさと水と土」地域住民活動業務を県から受託し、支援を受けながら、稲川地域の4小学校で田植えや稲刈りなどの農業体験を実施して、地域の方々に呼びかけ手植えや手刈りの仕方などを子供たちに教えていただく活動を行ったり、施設見学会を開催して先人が開削した農業水利施設や農業用水の大切さなど理解していただく活動を行っている。

また、学校との連携が図られるようになったことから、ゴミ問題に子供たちの力を借り、ゴミ捨て防止標語コンクールを開催し、優秀作品を看板にして地域に展示したり、土地改良区の広報誌に掲載し、地域住民にゴミ捨て防止の啓発活動を行った。



活動体制	
実施主体	水土里ネット稲川（稲川土地改良区）
後援・連携	湯沢市、湯沢市教育委員会、管内5小学校、2中学校、資源保全会、農事組合法人、その他
実施期間	5月26日～2月19日
参加者	管内5小学校、2中学校、資源保全会、農事組合法人など延べ1,235人
報道関連	AKTテレビ、秋田魁新聞、農業共済新聞
活動実施年数	13年目（H14年～）
連絡先	〒012-0105 湯沢市川連町字上平城120 稲川土地改良区 TEL. 0183-42-2116
その他	県奨励賞（H16、H18）県知事賞（H18）東北地方大賞奨励賞（H16、H21）東北地方大賞・21創造運動大賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット稲川（阿部 進）

○活動の目標及び達成率	目標	農業体験を通じ地域の宝である、子供や、農地・農業水利施設を守り、育てる。			
	達成率	95%			
○活動に対する評価	学校教育との連携に資源保全会など地域の方々が関わることにより創造運動への理解が深まっているように思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	A	運動開始以来12年間、何千人の子供達と交流し協力していただいた方々も相当数に及ぶ。活動にはマンネリ的な面もあるが、しかし子供達は毎年違い、最初の子供達は20代半ば、もうすぐ9世がどろんこ学校に入ってくる年代。継続が重要と思われる。
①役職員・組合員の参加	B	役員が学校田を提供し、役員総代など組合員も子供たちに教えるため積極的に参加しているが、組合員にもう一步浸透が必要。	③運動の計画性	A	施設見学会や出前授業で農業水利施設や水土里ネットの役割などを理解していただいている。
②後継者育成の工夫	A	水土里ネットの若い職員がコーディネーターとして活動できるよう研修を受講するなどしている。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	改良区の運営や事業の取り組みには協力的だが、もう一步組合員に意識の向上を促したい。
①基本理念の設定	A	理事会や総代会で創造運動の意義を理解していただき「先人に学び・農に学び・守り育てる『地域の宝』」をスローガンに掲げ取り組んでいる。	b. 地域農業	A	事業を積極的に推進し、戦略作物等の栽培に対応したほ場の整備に努めている。
②地域の歴史等の伝承	A	先人が苦勞して開削した水利施設など施設見学会や出前授業、紙芝居を行うことで施設の大切さを理解していただき、黒坂兵右衛門翁顕彰会が設立されており、毎年「慰霊祭」を開催し、教材の一部として活用している。	c. 地域コミュニティー	A	水路維持用水が流雪溝用水として利用され、農業用水が地域の宝と認識されている。また学校だより等の発信が地域に情報提供している。
③運動の先駆性	A	スローガンのとおり、地域の宝（農業水利施設、お年寄りなど）を活用し、地域の宝（子供たち）を育成する活動を展開している。	d. 地域資源管理	A	流雪溝用水、防火用水などとして利用されているため、自治組織や消防団などの協力が広がりを見せている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	職員数が少ないので、役員や資源保全会、農事組合法人、地域の方々などの協力を得ながら、活用できる補助事業を取り入れて実践している。	・創造運動は着実に地域に浸透していると思うが、もう一步底辺拡大を図りたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水土里の体験～稲作体験を通しての地域交流～

今年度は羽後町立田代小学校の全校生徒を対象に“田んぼの学校2014”を実施しました。この活動は休耕田を活用し稲作体験を通して、農業及び食の大切さと水土里ネットの役割を学ぶことを目的にしており、単独校では3年目の活動となります。

内容として今年度、8アールの水田に田植えの1作業を学年毎に分担し体験学習を行いました。

また、体験学習と別に独自に稲の成長を観察するなど学習会を開催しました。収穫したお米について食育の授業や地域の福祉活動に活用されており、地域住民の方々より大変好評を得ています。

尚、5年生にとって、社会科学習の一環であり興味を持って積極的に活動しています。

羽後町立西馬音内小学校の場合、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法を含め農作業体験と食育の授業を行うなど、5年生の子供達を対象に行っており好評を得ています。

また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解して頂ける会でした。

「第10回食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して、管内の女性の方を対象に当水土里ネットが管理している農業水利施設見学と、地元県会議員の講師による講演、また、当水土里ネットについて女性の視点での意見交換会を行いました。

この意見交換会では、今後の農業政策に対する不安を述べる中、農業用水及び農業水利施設の重要性と維持管理の必要性を分かりやすく説明を頂き、理解を深めたとの感想が多かったです。

また、今後この活動を継続して頂きたいとの声が多く大変有意義な会でした。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご（羽後町土地改良区）
後援・連携	町内2小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町農林課、JAこまち、秋田広域農業共済
実施期間	5月27日～11月21日
参加者	町内2小学校、組合員（非農家含む）、管内の女性など 総参加者354名
報道関連	秋田県のHP（美の国あきた）、JAこまち広報、秋田広域農業共済
活動実施年数	12年目（H14年～）
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL. 0183-62-0741
その他	県奨励賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご（藤原 周悦）

○活動の目標及び達成率	目標	出前授業4小学校、食料・環境・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	農作業の体験活動を通して、お米及び食について関心度が高くなった。また、当水土里ネットの役割を組合員以外の方にも活動を通して理解を得ている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	継続する上で今後、地元関係者の人材育成が課題である。特に、“田んぼの学校”については、地域で行えるよう内容を改善したい。運動の発展性については、他組織との連携が必要であり、現段階では調整が図れない状況である。
①役職員・組合員の参加	B	広報での啓発及び会議等で報告しており、理解を頂いている。	③運動の計画性	A	主に女性の会で開催しており、好評を得ている。
②後継者育成の工夫	B	活動を通して、微力ながらも農業及び食育について人材を育成している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	事業計画に織り込まれているが、当水土里ネット全体での活動でないため組織の活性化には至っていない。
①基本理念の設定	B	当水土里ネットの事業計画として、織り込んでいる。	b. 地域農業	C	地域農業の振興に寄与しているが、先導的な組織としての活動は行っていない。
②地域の歴史等の伝承	B	農業水利施設の管理及び維持管理体制等について、当水土里ネットの特徴を活動の場で説明し理解を頂いている。	c. 地域コミュニティー	B	主に農地・水・保全管理の活動を通して、地域コミュニティーが図られている。
③運動の先駆性	B	基本理念と目標に沿って行っており、“田んぼの学校”も含め当初と変わらない方向性で行っている。	d. 地域資源管理	B	上記と同様である。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	予算面及び活動も含め、身の丈にあった範囲で行っている。	・統合後、10年目であるが創造運動の活動等を通して、地域の方々に当水土里ネットに対して認知度が徐々に向上しました。反面、要望も増えていますが身の丈にあった活動内容とし地域主導型で行えるよう運動を展開したい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

イメージソング「水土里ネットのテーマ」& イメージキャラクターの紹介

「水土里ネットのテーマ」

水土里ネット 水土里ネット
水・土・里って書いて
水土里ネット 水土里ネット
ふるさとを守ってる！

田んぼに水を 畑に水を
運んでいるよ用水路
きれいな水を届けるためさ
ほくら水土里ネット
水路のことはおまかせさ

水土里ネット 水土里ネット
水・土・里って書いて
水土里ネット 水土里ネット
水路を守ってる！

作詞・作曲・歌 渡部 絢也

監 修 水土里ネット秋田

あっちこっち広がる 田んぼをまとめよう
形そろえて 見た目もホラきれい！
自慢の田んぼを未来へつなぐ
ほくら水土里ネット
農地のことはおまかせさ

いのちあふれるふるさと
人・花・虫
ずっと仲良く生きていこう
だからほくらがいる！

水土里ネット 水土里ネット
水・土・里って書いて
水土里ネット 水土里ネット
農地を守ってる！

ふるさとを守ってる！



よろしくね!



水土里ネット秋田イメージキャラクター みどりちゃん

「水土里ネットのテーマ」の制作と共に誕生した「みどりちゃん」。キュートなおばこ姿で全県の「水土里ネット」をPRしています！
twitterやfacebookの更新も行っています。
21創造運動での活躍も期待されていますので皆様どうぞ宜しくお願い致します。

水土里ネット秋田HP→<http://www.akita-midori.net/>
twitterアカウント→@midorinetakita
facebookページ→「水土里ネット秋田」で検索



農村環境を保全する

〔発行〕

水土里ネット秋田 [秋田県土地改良事業団体連合会]

〒010-0967 秋田市高陽幸町3-37 TEL.018-888-2750 FAX.018-888-2834
<http://www.akita-midori.net/>